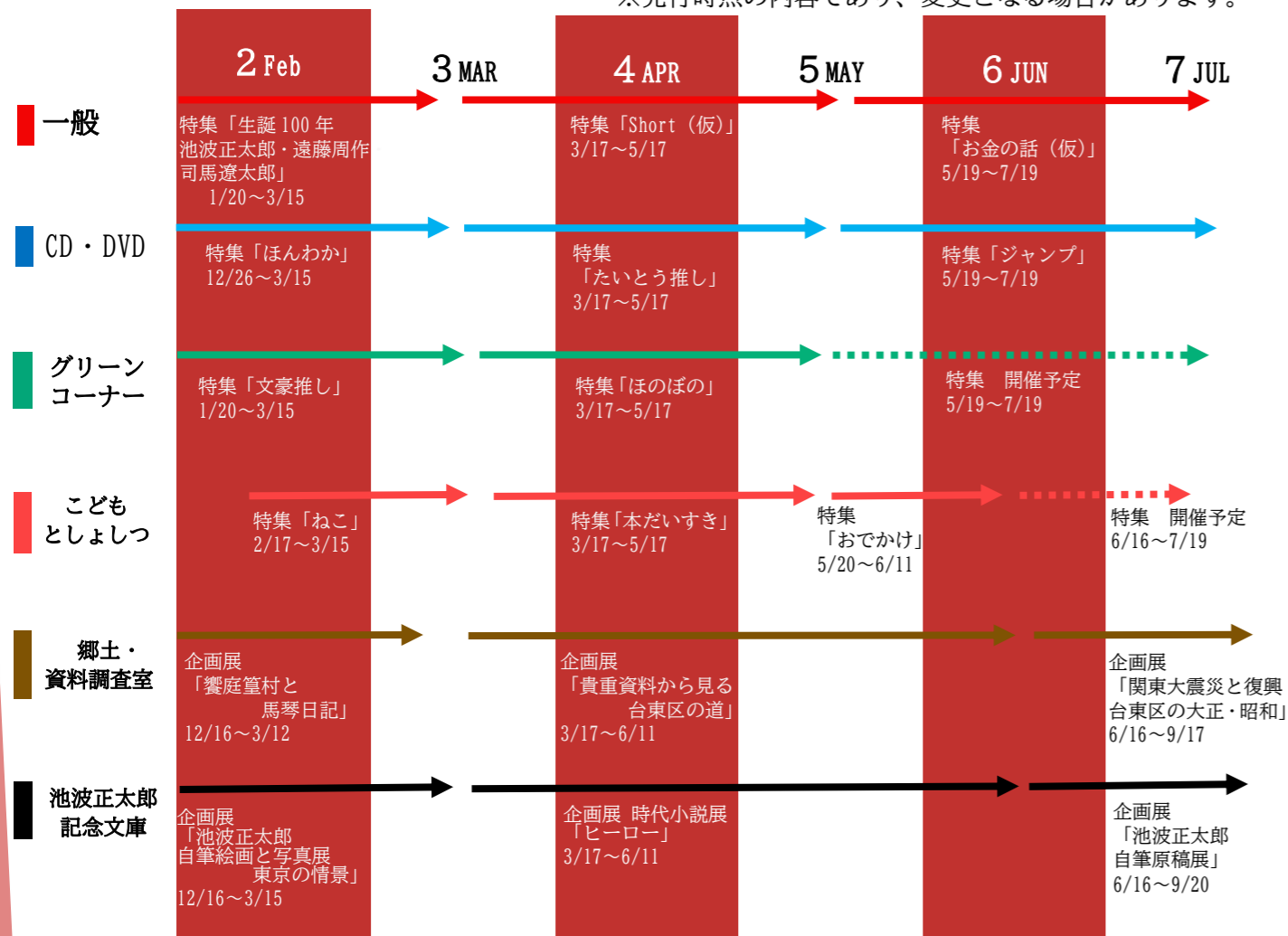


※発行時点の内容であり、変更となる場合があります。



図書館だより vol.5

池波正太郎生誕 100 年記念事業 時代を翔ける 池波正太郎の魅力



講演会 ・講座	鬼平犯科帳 長谷川平蔵
剣客商売 秋山小兵衛	展示
まち 歩き	仕掛人・ 藤枝梅安

区内各図書館のご案内

※各図書館の開館日についてはホームページより
開館カレンダーをご確認ください。

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 中央図書館
西浅草 3-25-16
生涯学習センター 1 階・2 階
TEL:5246-5911 | 浅草橋分室
浅草橋 2-8-7
浅草橋区民館 2 階・3 階
TEL:3863-0082 | 谷中分室
谷中 5-6-5
谷中防災コミュニティセンター 3 階
TEL:3824-4041 | 根岸図書館
根岸 5-18-13
都営根岸 5 丁目 A パート 2 階
TEL:3876-2101 |
| 石浜図書館
橋場 1-35-16
3 階・4 階
TEL:3876-0854 | すこやかとしよしつ
東上野 4-22-8
台東保健所 3 階
TEL:3847-3087 | くらまえオレンジ図書館
蔵前 4-14-6
環境ふれあい館ひまわり 6 階
TEL:3865-3201 | |



図書館ホームページ



バックナンバー

2023.2 台東区図書館だより vol.5
発行：台東区立中央図書館（年 2 回発行）

池波正太郎は時代小説の傑作を多数発表した、日本を代表する時代小説作家です。
1923年1月に、現在の台東区浅草で誕生し、幼少期を、江戸の名残が残る下町、上野・浅草で過ごした池波正太郎は、「私の故郷は誰がなんと言っても、浅草と上野なのである」と語っており、3大シリーズである「鬼平犯科帳」、「剣客商売」、「仕掛人・藤枝梅安」など多くの作品でこの地を題材にしています。池波正太郎は、その他、大河小説の真田太平記などの小説の他、食べ物や旅などのエッセイにも健筆を揮い、生涯で1000作を超える作品を残しています。

詳細は中をご覧ください →

講演会・講座

◆直木賞受賞作家による講演会(生涯学習センターミレニアムホール)

- ①1/28 逢坂 剛 第96回直木賞受賞(S61)
- ②9/16 今村 翔吾 第166回直木賞受賞(R3)
- ③12/15 山本 一力 第126回直木賞受賞(H13)

◆文藝評論家等による講座

- 生涯学習センター(第3回の待乳山聖天)
- ①2/12(日) ②4/22(土) ③5/27(土)
 - ④6/17(土) ⑤8/19(土) ⑥11/11(土)



特別ラッピングしためぐりも走ります!

②今村 翔吾 ③山本 一力



生涯学習センターに顔出しパネルが設置されます。写真を撮って池波正太郎記念文庫に提示いただいた方には記念品をプレゼント!



展示

◆展示

- ①3月 ポスター展 浅草TX駅通路
- ②3月 写真展 生涯学習センター
- ③4月 劇画展 浅草公会堂
- ④5月 ポスター展 浅草文化観光センター
- ⑤7月 写真展 生涯学習センター
- ⑥10月 ポスター展 台東区役所

◆文庫内企画展

- ①12月～ 自筆画・写真展 「東京の情景」
- ②3月～ 時代小説展 「ヒーロー」
- ③6月～ 原稿展
- ④9月～ 写真展 「青春忘れ物」

まち歩き

◆まち歩き

- 区内16カ所に高札型案内板が建ちます



生誕100年ロゴ入りの限定グッズも販売しています!是非お買い求めください!



- ↑革製ブックカバー(4色)
- その他・トートバック
- ・Tシャツ
- ・タンブラー
- ・ミニタオル
- ・箸スプーンセット
- ・オリジナル記念切手



○池波正太郎ゆかりの地を紹介したまち歩きマップを配布します

配布場所:区内図書館、浅草文化観光センター 台東区役所観光課 など

○作品ゆかりの地を巡る台東区民限定バスツアーを実施します

- 実施日:3月5日(日)、16日(木) 有料・要申込
- コース:台東区(待乳山聖天・龍寶寺・阿部川町)・石川島灯台(中央区)・池上本門寺(大田区)等

・池波作品ゆかりの地を巡る区内スタンプラリーを実施します

- 実施時期:5月、文庫で景品をプレゼント
- ・文庫内でのクイズラリーを実施します(7月)

この他にもたくさんの事業を実施していきます。詳しくはHPをご覧ください。



昔の本ってどんな風にしたの?

本、という言葉からイメージされるのは内容を印刷した紙を重ねて綴じられた冊子でしょうか。しかし、「情報を記録する媒体」としての古代の本は、ずいぶん形が違っていたようです。紀元前3000年から紀元前後ごろのメソポタミア文明では粘土板に文字を刻んだものが使用され、古代エジプトでは10世紀ごろまでは「パピルス」という、植物を薄く延ばして重ねたものを使用していたことが分かっています。パピルス長くつなげて巻物のような形にしていたこともありました。

形が今の「本」に近くなったのは紀元前2世紀ごろのヨーロッパで、羊皮紙が作られるようになってからです。粘土板と比べて軽く薄く、パピルスと比べて丈夫で両面に書くことができる羊皮紙は何枚も重ねて穴を開け、ひもを通してまとめて冊子にすることができるようになりました。

現在の「本」の中身も含めてより近くなったのは、印刷技術、とりわけ活版印刷の普及にありました。活版印刷とは、本の内容を凸型に刻んだ組版にインクを塗り、紙に内容を印刷する方法です。最初にこの技術が発生したのは中国といわれていますが、ヨーロッパではグーテンブルクという人が活版印刷を発明し、当時東アジアより伝わった紙の作り方や聖書の存在も相まって、急速に普及するようになりました。

図書館司書が選ぶ おすすめ本の紹介

作ろう!フライドチキンの骨格標本

志賀 健司 緑書房

博物館になくはない標本。千年先の人に標本を残す使命を博物館は持っています。

本書では学芸員の著者が骨格標本の製作を解説しています。標本づくりの資料は身近なファーストフード店で入手することが可能です。是非ニワトリの骨格標本づくりに挑戦してみてください。

岡井隆の忘れもの

岡井 隆 書肆侃侃房

1950年~60年代に興隆した「前衛短歌運動」。塚本邦雄、寺山修司と共にそれをけん引した岡井隆。歌人であり詩人。かつては医師でもあった半生を振り返るインタビュー記事、未刊行エッセイや詩歌の論考が本書に収録されています。

「豊かな日本語の修辞の面を大事にしたい」という著者の詩歌評からは、日本語という言葉の奥深さを感じることができる...そんな一冊です。

上記の本は、毎月発行している「たいとうライブラリーニュース」(メールマガジン)で過去に紹介された本から選んだものです。最新のおすすめ本はたいとうライブラリーニュースで配信しています。詳細は右記のQRコードをご参照ください。

